

# コロナ禍において、学校・家庭・地域ができることは何か？

## 1 テーマ設定の理由

- 1 新型コロナウイルス感染症が収まらない状況の中、子どもたちの学校生活に大きな制約が課され、子どもたちの豊かな学びと育ちに支障をきたしている。
- 2 子どもたち及び子どもたちを取り巻く大人の「いのち・健康」を最優先にしながら、子どもたちの学びと育ちを止めない取組を展開していくことが、私たちの役割でもある。
- 3 「今できる範囲の中で、できることがあるのではないか？」できない理由を言うよりもできる知恵を出し合いたい。



## 2 家庭・地域との交流の中で、育てたい子どもの姿

- 錦生地区、赤目地区の自然・歴史・伝統文化と関わり、地域の特色や人々とのかかわり（交流）を通して、よりよいコミュニケーション能力をはじめとする**社会性と郷土愛を育て、未来を主体的に生きていく**子どもたち。
- ふるさと（地域）のよさを感じ取り、ふるさとの一員としてよりよい地域を創るため、自ら行動を起そうとする子どもたち。

## 3 今回、話し合う目的

普段見ている**子どもたちの様子**や、**子ども・保護者アンケートから見える問題点**などを参考に、さらには、**新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえたうえで、**  
「今、どのようなことができるのか？できないことを言うよりも、できるための知恵を絞り、手立てや工夫ができないものか？」、その実現に向けた話し合いが、今回の熟議の目的です。



# 感染リスクが高まる「5つの場面」

## 場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で注意力が低下する。また、聴覚が鈍磨し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用は感染のリスクを高める。



## 場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、例えば深夜のはしご酒では、昼間の通常の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- また大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



## 場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケや野外のバーベキューでの事例が確認されている。



## 場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用施設での事例が確認されている。



## 場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での事例が確認されている。車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

